

平成20年度全国学力・学習状況調査

概 要

～猪名川町は全体として良好、一部領域に今後の課題も～

4月22日に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果が、文部科学省から公表されました。この調査は、

- (1) 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること
- (2) 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること
- (3) 各学校が各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てること

を目的に行われたものです。

実施の状況

- (1) 調査対象 小学校第6学年の全児童、中学校第3学年の全生徒
- (2) 調査内容 ・教科に関する調査（国語、算数・数学）
A・・・主として「知識」に関する問題
B・・・主として「活用」に関する問題
・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

結果の公表について

- (1) 国・県の基本方針

実施主体である文部科学省の通知及び兵庫県教育委員会の指導において、今回の調査結果は学力の一部を示すことを踏まえ、また実施要領の趣旨に沿って市町間や学校間の序列化や過度な競争を招くことのないよう、市町ごと学校ごとの数値による公表は行わないことが求められています。

- (2) 猪名川町の基本方針

参加主体である全国の各市町は、国が示した実施要領の趣旨に同意して今回の調査に参加しています。一部の市・区において数値による結果を公表したところがありますが、本町においては、すでに今年1月に町独自に実施した「猪名川町中学校学習到達度調査」の結果（ゆとり8月15日号及び教育支援室ホームページで公表）と今回の結果とが小・中学校ともに同様の傾向を示していることと、町全体の平均に目を奪われることなく一人一人

の児童生徒の学力を向上させていくことに主眼を置くことを重視し、実施要領の趣旨にしたがい数値による公表は行わないことを決定しています。

（３）各学校の公表

町内の各学校において、それぞれ調査結果を分析し学習指導の改善策を検討するための委員会を設置し、その結果を今後の教育活動に生かすとともに、11 月中に学校だよりで公表しています。また、懇談等において、学級担任から一人一人の児童生徒に学習方法や生活習慣の改善などについてアドバイスをを行います。

（４）「学力」について

「学力」は、知識や技能はもちろんのこと、自ら進んで学ぶ意欲や、自分で課題を見つけ自ら学び、主体的に判断して行動し、よりよく問題解決する力を含むものです。したがって、今回の調査は「学力全体」を把握できるものではなく、あくまでも「学力の一側面」として受け止める必要があります。

今後の予定

猪名川町では、平成 17 年度から、新しい猪名川の教育「わくわくスクールプラン」を策定し、子どもたちに「確かな学力」「豊かな心」「たくましい体力」からなる「生きる力」をはぐくむための教育を進めています。その核になっているのが「就学前教育から小学校・中学校」までの一貫教育です。校種をこえて、保育士・教師が連携して、子どもたちを連続した目で見守りはぐくむ教育が定着してきました。たとえば、中学校区ごとに、小学校と中学校の教員による一貫カリキュラムの開発や、合同研修などを実施しています。今後は、「わくわくスクールプラン」の中でも、特にすべての学習・学力の基盤となり社会生活の基盤となる「言葉の力」を高めることを軸に、町をあげて研究していきます。

教科に関する調査結果

国語、算数・数学ともに、今回出題された学習内容を概ね理解しており、猪名川町の児童生徒の基礎・基本の定着率は高いのですが、全国の傾向と同様に、「活用」（知識や技能を活用する力、応用力）に課題が見られます。

【小学校】

国語A（知識）	「話すこと・聞くこと」の領域は、全国と同様に他領域に比べて正答率が高い。「読むこと」については正答率が全国平均に比べて非常に高いものの他領域に比べて低く、目的や意図に応じて内容を的確にとらえる言語能力を培う必要がある。
国語B（活用）	「話すこと・聞くこと」の領域は、全国と同様に他領域に比べて正答率が高い。「読むこと」の領域は全国と同様に他領域に比べて正答率が低く、特に「目的に応じて必要な情報を読み取る力」に課題がある。
算数A（知識）	「量と測定」の領域は、全国と同様に他領域に比べて正答率が低いものの、概ね良好な結果で、基礎・基本が定着していることがうかがえる。
算数B（活用）	全国の傾向と同様に「数学的な考え方」にやや課題が見受けられる。記述式の出題は総じて正答率が低かった。

【中学校】

国語A（知識）	国語への関心・意欲・態度が非常に高いことがうかがえる。4つの領域の中では特に「話すこと・聞くこと」の領域の正答率が非常に高い。
国語B（活用）	「言語についての知識・理解・技能」の正答率が高いが、全国の傾向と同様に、「資料に書かれている情報の中から必要な内容を読み取る力」に課題がある。
数学A（知識）	いずれの領域も学習内容の理解度が高い。特に「数と式」と「数量関係」の領域では正答率が全国平均を大きく上回っている。
数学B（活用）	全国の傾向と同様に、問題Aに比べて正答率が低く、知識・技能を活用する力に課題が見られる。

生活習慣等に関する質問紙調査結果

基本的な生活習慣、学習に関する関心・意欲・態度、家庭でのコミュニケーション、規範意識など約100の項目について調査が行われました。文部科学省では、これらの質問に対する回答と、国語、算数・数学の平均正答率との相関関係についても結果を示しています。

たとえば、朝食を毎日食べる子、読書が好きな子、テレビやビデオ、DVDを見る時間が短い子、家の人と学校での出来事について話をよくする子や新聞・ニュースに関心がある子には、正答率が高いという傾向が出ています。